

群馬県立藤岡特別支援学校 学校評価一覧表① (令和3年度版)

(様式1)

※(〇%)は、職員及び保護者アンケートにて「とてもそう思う」「ややそう思う」と回答のあった割合です。

羅 針 盤			担当分掌	方 策	第1回点検・評価			第2回点検・評価		
評価対象	評価項目	具体的数値項目			自己評価	外部アンケート	改善策	自己評価	外部アンケート	改善策
I 幼児児童生徒の地域における豊かな生活の実現に向けて努めていますか。	1 保護者、地域、関係機関に学校の教育活動について、具体的に伝えていますか。	PTAが関連する総会や事業に参加した保護者の90%以上が満足している。	渉外部	新型コロナウイルス感染症へ対応しつつ、親睦を深めたり、研修等の場を提供したりするなど、保護者のニーズに沿った事業を実施していく。	A (100%)	A (98%)	コロナ禍で変更になる行事等が多かったが、できる限り早い連絡や代替手段の捻出により高評価であるため、今後も本人・保護者とよく相談しながら企画していく。	A (100%)	A (98%)	保護者のニーズとして「オンライン授業参観」「コロナ禍でも行事の実施」があるため、コロナ禍でも安全に実施できる各種行事を工夫していく。
		学部・学級便りやWebページ等から「子どもの学習の様子がよく分かる」と保護者の90%以上が答えている。学校行事や説明会等の学校公開の参加者及びWebページの閲覧者が月平均100名以上である。	教務部 各学部	各便りやWebページの記事等に、個人情報に留意しながら学習の目的や具体的な取組などを入れて分かりやすく伝える。学校公開や説明の資料を関係各所に配布するとともに、学校公開や授業等の取組の様子を動画にして配信したりする。	A (100%)	A (98%)	数値項目は達成されているが、4割程度の保護者と職員は「ややそう思う」の回答であるため、更なる機会の確保と質の向上を図る。Web上のアクセス数は目標を大きく上回っているが、例えば学校紹介などの魅力的なコンテンツを充実させ、アクセス数などを伸ばす。	A (100%)	A (96%)	「ややそう思う」の回答は、保護者及び職員で減少し「とてもそう思う」が増えた。伝える頻度や方法を更に模索していく。Webアクセス数自体は半期で1万5千件以上増えた。未実施の学校紹介や特徴的な学習活動の動画作成を行っていく。
		いじめの認知の仕方について保護者の90%以上が理解している。	生徒指導部 各学部	いじめの認知の仕方について、PTA実行委員会や授業参観などで学校いじめ防止基本方針と関連資料を配付し説明する。	A (97%)	A (95%)	昨年度は81%の保護者の理解にとどまっていたが、PTA総会時の研修ビデオの配信の工夫で理解度が上がったので続けていく。	A (97%)	A (96%)	保護者にはPTA総会時の動画が、職員にはいじめ対策会議の積極の実施が効果的であったので継続していく。
	2 保護者、地域、関係機関との共通理解が深まり、有効な支援が行われていますか。	児童生徒全員について、ケース会議又はサービス等利用計画作成のための会議を実施し支援につなげる。	地域支援部	個別の教育支援計画等の書類を資料に校内ケース会議を積極的に行うとともに、会議録を必ず関係機関等と共有する。	A (94%)		関係機関と児童生徒全員のケース会議はできているが、支援に生かし切れていないので、県の推奨するケース会議を参考に実施する。	A (97%)		専門性の違う職種が一堂に会する機会は少ないので、積極的に意見等を交換して連携を続ける。学校見学会も企画したい。
II 地域の特別支援に関するセンター的な役割を果たしていますか。	3 障害のある幼児児童生徒の教育について、助言援助に努めていますか。	新規の10件以上の小中学校等を訪問して助言を行うとともに、年3回以上の研修の機会を提供している。	地域支援部 研修部	特に幼稚園・保育所と中学校への支援を強化するために関係各所へ働きかけるとともに、授業研究について地域の学校へ配信し互いに研鑽を深める。	B		新規の相談は多く受けているが、新規の施設等は数件にとどまっているので、今後更に本校のセンター的機能を広く周知するとともにコロナ禍での研修を企画する。	A		本校のセンター的機能を周知するための一環として、地域の幼小中学校等に向け、公開講座を6回開催し好評を得た。外部関係からの参加者は延べ35名。
III 幼児児童生徒一人一人の実態に応じた適切な指導をしていますか。	4 個に応じたきめ細かな指導を行っていますか。	95%の保護者が「個別の指導計画」の指導内容についてお子さんの実態に合ったものであると答えている。	研修部 各学部	計画立案の際、保護者の参画を促し、学校と家庭で共通理解のもと指導を行うとともに、評価を連絡帳や通知票で行う。	A (97%)	A (100%)	個別の指導計画や実際の指導について全ての保護者が満足しているが、書き方や活用の仕方について課題があるため校内研修で補っていく。	A (93%)	A (96%)	高評価は増えているが、満足している保護者の割合は減った。難しい子どもが増えているので、書式や指導の工夫で対応する。
		5 指導内容の確実な定着を図る授業が行われていますか。	校内研修のテーマに沿った事例検討と研修内容の共有を月1回以上行う。	研修部	学部で年に1回以上研究授業を行い授業の研究を進めるとともに、雑誌やWebで公開する。	A (88%)		夏季休業中に授業公開等を実施し、実践内容が雑誌にも掲載されたので引き続き実践と公開を行う。	B (70%)	
IV 健康や安全の確保に努めていますか。	6 健康に関する配慮や対応を適切に行っていますか。	感染症対策や学校安全について、学校の情報提供や対応に95%以上の保護者が満足している。	保健安全部	感染症の罹患状況や注意喚起について、ホームページや玄関の掲示などを活用して周知に努める。緊急な場合にはオクレンジャーや連絡帳を通して知らせる。	A (100%)	A (100%)	感染症対策の具体を学校日よりや保健日より等で周知したり、実際の指導をYouTubeで保護者に限定配信したりすることで満足度が上がっているため継続していく。	A (97%)	A (98%)	高評価であるが「とてもそう思う」が減少している。本校における陽性者はまだ1名であるので、引き続き清潔指導や施設の消毒などに力を入れていく。
		7 危機管理体制が確立され、緊急時への備えができていますか。	95%以上の職員が、災害時の対応マニュアルをわかり易いと答えている。	保健安全部	本校の災害等の対応マニュアルを、統一された図式に変え、全職員に配付し、学級内に掲示する。	A (100%)		マニュアルについては問題はないので、訓練を充実させることで実際の動きとマニュアルの質の向上を図る。	B (84%)	
V 将来の生き方に結びつく進路指導を行っていますか。	8 キャリア教育の視点から、指導内容を整理して系統的な指導を行っていますか。	小学部から中学部、そして高等部へと一貫した指導計画を立案し、内容を100%の教員が説明できる。	移行支援部 教務部 各学部	農園芸の作業学習充実を柱に、小学部から中学部、高等部まで段階的に農園芸に関わる学習活動を採用した計画を立案、実施する。	A (94%)		計画の立案と周知はできたので、例えば農園芸及び農園芸に関する学習活動について、次の指導計画に盛り込んでいく。単元については今後も実験的に行っていく。	A (93%)		高等部で質の高い野菜等を作る素地はできたので、次年度は小中学部において、教科等の計画に内容を組み入れ、高等部と交流しつつ実践を積み重ねる。
		9 保護者、関係機関との連携のもとに発達段階に応じた進路指導を行っていますか。	学部間や社会への移行について早期から本人及び保護者と協議し、その意義や内容について95%の保護者が満足している。	移行支援部 各学部	保護者と直接話す機会において移行を話題にあげてニーズを把握して教育活動に活かすとともに、早期から福祉等の関係機関とつながるメリットを伝える。	A (97%)	A (100%)	小学部から先を見据えて目標を立て、内容を家庭等と共有して支援することで満足度は上がっているが、実践には課題があるので事例を集めて指導力を向上させる。	A (93%)	A (98%)